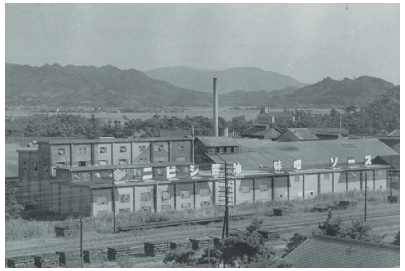
02 まちの特性

02 まちの特性

1．ＪＲ古賀駅周辺の成り立ち

古賀駅は、1890 年に博多駅～赤間駅間に九州鉄道（現ＪＲ九州）が開通したことに伴い開業しました。1919 年には、東口に日本調味料醸造株式会社（現ニビシ醤油株式会社）が創業し、昭和初期には大規模工場が相次いで進出してきました。

同時期に西口では商店街が形成されます。戦後には宅地化が進み、1970 年代には現在の市街地構造とほぼ同一の状態となっています。



日本調味料醸造株式会社

駅前通り商店街（昭和 40 年代）

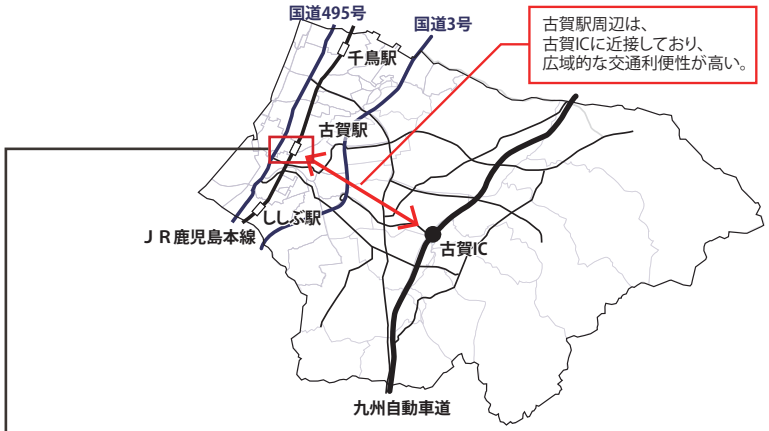
国土地理院地形図（1926 年）

国土地理院標準地図（2022 年）

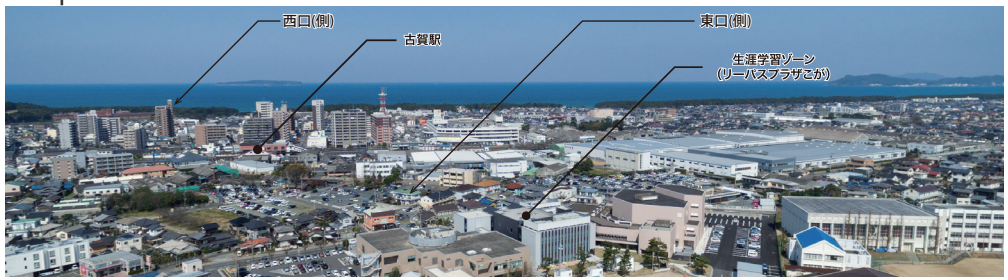
2．ＪＲ古賀駅周辺の立地特性

ＪＲ古賀駅周辺は、「まち」のほぼ中心に位置しています。「まち」全体でみるとＪＲ鹿児島本線、国道３号、国道 495 号が通り、古賀 IC にも近いことから、広域的な交通利便性に恵まれています。

医療・福祉・商業・行政・交流学習などの主要な都市機能は、駅から約１ｋｍ圏内に立地していますが、駅周辺からまばらに離れて点在している状況です。西口と東口では異なる市街地を形成しています。西口では国道 495 号沿道を中心に商業・業務機能の集積のほか、駅直近という立地から 10 階前後のマンションが見られるのに対し、東口は大規模工場と市役所、生涯学習ゾーン（中央公民館、交流館、図書館・歴史資料館）などの公共施設が立地し、住宅は戸建てがメインとなっています。



古賀市の都市構造



古賀駅周辺の街並み

３．ＪＲ古賀駅東口周辺の現状

【土地利用】

古賀駅開業後から工場立地が進められており、現在でも大部分は工場用地になっています。そのため、計画的かつ面的な市街地整備が行われておらず、駐車場などの低未利用地も多くあります。

【交通アクセス】

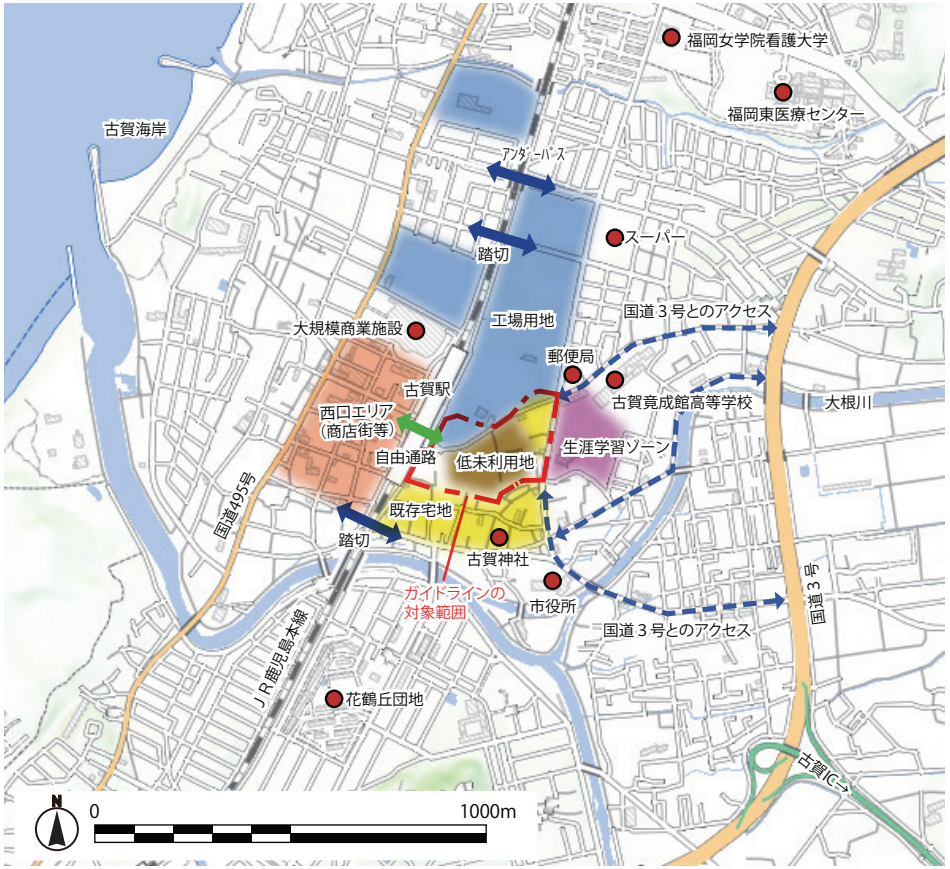
東口の駅前広場には路線バスとコミュニティバスが乗り入れています。待機スペースが不十分なため、朝夕などのピーク時には自家用車による混雑が発生しています。

東口から近隣市町村や主要都市を結ぶ広域幹線道路として国道３号（香椎バイパス）があります。国道３号は旧国道３号（現国道 495 号）の慢性的渋滞緩和を図るバイパスとして 1970 年代から段階的に整備されましたが、整備に先立ち東口周辺の宅地化が進行していたことから、国道３号は古賀駅から約１ｋｍ東側に離れた場所を通っており、アクセス性に課題があります。

【歩行者ネットワーク】

古賀駅の東口と西口の市街地は線路で分断されており、車で行き来する場合には南北の踏切まで大きく迂回する必要があります。一方で、歩行者は古賀駅の自由通路により往来することが可能であり、一日に約 1,000 人が東西の通り抜けに利用しています。

生涯学習ゾーンは、駅から東方面に直線距離で約 300 ｍの場所に位置していますが、歩行者が駅から生涯学習ゾーンへ向かうためには、郵便局前の道路を利用する必要があるため、時間がかかります。また、ガイドラインの対象範囲南側の既存住宅地内の道路は狭隘な道路や行き止まりも多く、地区全体の回遊性は高くありません。

【地域資源】

創業 100 年を超える工場や古賀神社などの歴史的資源のほか、工場前にある大クスノキ、大根川などの自然的資源、生涯学習ゾーンや市役所などが立地しています。